

保育形態と幼稚園の生活

天 野 珠 子

Teaching Styles and Daily Living at Kindergartens

Tamako AMANO

I はじめに

筆者が幼稚園教育に携わり、担任として保育に関わったのは昭和30年代の後半からであった。当時は出生率も高く幼稚園も不足がちで、新興住宅地では入園受付時には早朝から長蛇の列ができ、雨後の筈のように幼稚園の開設が行なわれていた。それらの園は幼稚園設置基準に基づき、施設も保育内容も小学校のミニチュア化が一般的であった。6領域の内容を時間割風にはめ込み、一斉的教師伝授型の保育が主流であった。以後多方面から幼児期への研究も進み、欧米諸国の幼児教育情報を得る機会も増え徐々にではあるが、幼稚園教育に対する認識も変化してきた。

加えて平成2年の幼稚園教育要領の改訂は、少子化傾向の中で就園率や施設・設備といったハード面の関心から幼児主体の保育、援助者としての教師といった保育内容の質の変換へと移行していった。

現行の幼稚園教育要領も平成12年度改訂予定の新教育要領も時代を反映し、意識の点では欧米諸国に劣らない所まで来たといえる。これらの基本理念が、国公立をはじめ全ての私立幼稚園に正しく浸透し、好ましい形で小学校教育へ継続されることを念じずにはいられない。

しかし、幼稚園教育に対する価値観の変換から十年、現場の幼稚園の実態はどうなっているのだろうか。各幼稚園の実態はなかなか掴みにくい。例えばアンケート調査では正直な回答は得にくく、1園ずつ参観して歩くには膨大な時間を要する。そこで今回保育科学生（2年生）の実習日誌を参考に保育形態を探ってみることにした。学生の3週間の実習日誌はタイムスケジュールに従い記録されている。また一斉活動か自由活動か、その内容も把握しやす

い。教師の援助の仕方や助言的対応までは把握したいが、おおまかな予測は可能なのではないかと、思いそこから現状の幼稚園教育の実態を探ってみることにした。

II 保育形態の変遷

戦前の保育は家庭の延長線上にあり、のどかでゆったりしたものであった。1年保育が主流で、遊びを中心とし、保育内容も遊戯・手技・唱歌を中心にフレーベル式の田園ムードであった。就園児も裕福な家庭が多く各園の園児数も少なかった。ところが戦後、幼稚園教育への関心が高まり、公立園の増加は、小学校並にカリキュラムの統一化が進み、私立園もそれに準ずる傾向が出てきたのである。つまり幼稚園の学校化である。構造的にも16坪の保育室を廊下で結ぶ規格品の幼稚園スタイルが出来上がった。

6領域を時間的に割り振り、教師は週案、日案の質の向上に追われ、いきおい各領域のレベルを上げることに夢中になっていった。独自性より画一的内容で競うとしたら他園よりどの位高いレベルまでいくかが目標となる。それがアクロバットの体育指導や鼓笛隊、ハーモニカ演奏、派手な遊戯会や発表会、といった形にエスカレートしていく一部の幼稚園を生み出していったといえる。

昭和50年代前半より出生率の減少に伴う園児数減はこれらの傾向に拍車をかけ、給食、プール、バスによる送迎などもっぱら親へのサービスが園児獲得の目玉となりしだいに保育の本質を見失っていったといえよう。

保育関係者も一般社会も幼稚園に対する認識は、小学校の小型化として位置づき、一部の教育学者等が本来の幼児教育に対し発言しても幼稚園への固定

観念を崩す迄には至らなかったのである。

受験戦争、家庭内暴力や非行の低年齢化、悪質な犯罪など青少年問題がクローズ・アップされるに伴い学校教育全般への見直しが国の対策となり、中曽根内閣時に中央教育審議会における答申が今日の改革のきっかけとなったといえよう。

詰込み主義の教育から、ゆとりの教育へ、そして生きる力をつける教育へと基本テーマも変わりつつある。幼児教育も人格形成の土台を造る時期としてより重視されるようになった。

III 保育形態の分類

新教育要領の《一般的留意事項》の(5)において、「幼児の行なう活動は、個人、グループ、学級全体など多様に展開されるものであるが、いずれの場合にも幼稚園全体の教師による協力体制をつくりながら、～中略～適切な援助をするようにすること。」とある。多角的で状況に応じた保育展開を期待していることがわかる。そこで次に保育形態について考えてみたい。

保育形態とは保育の形式のことである。従来保育関係者において一般的に大別されていた形式は、一斉保育と自由遊びという区分であった。これはいわゆる小学校の授業時間と休憩時間と同じ捉え方といえよう。しかし保育の形態はこれにとどまらない。たとえば現教育要領の中心的理念は「環境による教育」である。無目的に子どもを園庭に放任するのではなく子どもの自発活動を教育的配慮をもってうながす援助が常に必要となってくる。そこで現在考えられる保育形態を下記のように区分してみた。

- ・一斉保育 保育者の方であらかじめ保育計画をたて、意図的に同一の保育目標・保育内容でクラス・学年・全園児に働きかける形態。子どもの活動が受身的、追隨的、画一的に展開される。
- ・自由保育 子どもが自由に園内で活動する形態。現実には、環境的制限が与えられる場合もある。(園庭のみ、保育室のみ、体育館やホールのみ、など。)子どもは自主的、自発的に活動を展開する。保育者が遊びを誘導する場合もあるが、登園時や昼食後、バスの待ち時間など保育者は怪我やトラ

ブルの監視のみで活動に誘ったり共に遊んだりしないケースも多い。

- ・解体保育 ある一日、または一定の時間、クラスを解体し、スポーツ、音楽、造形活動など子ども達がそれぞれ設定された場所へ移動し、担当の教師から保育を受ける形態。大工遊び、運動遊び、製作遊び、ままごと、ブロック遊びなど。教具・教材が設定してある部屋あるいはコーナーに行つて子ども達が自由に遊ぶ形態もある。同学年のクラス解体、園全体のクラス解体などがある。
- ・混合保育 年令の異なる子ども達(3・4・5歳)で編成されたクラス。縦割保育ともいう。欧米諸国では極めて一般的だが、我が国では意図的に編成する場合(モンテッソーリ教育など)とある学年が少数のため他の学年に入れる場合(例えば、3歳児が少ないため4歳児のクラスへ組み込む場合など)位しか実践されていない。
- ・合同保育 2ないし3クラスを合同で保育する場合。さらに全園児が共同で保育に参加する場合。行事保育(運動会・発表会、お店やさんごっこなど)に多い。
- ・その他 上記の幾つかを組み合わせた場合や統合保育(健常児のクラスに障害児を入れて一緒に保育する形態)などがある。

IV 幼稚園生活の一日のタイム・スケジュール

(仮定)

「幼稚園の保育は4時間を限度とする」は周知のことである。従つて9時～1時が妥当といえる。実際の保育時間は8時半から9時位に登園し、1時半から2時位の降園が一般的であった。水曜、土曜は午前保育(11時半まで)が多かった。(バス使用園では多少のズレがある。)その間の流れはどうなっていたのであろうか。通常は登園した子から身仕度をすませ自由あそび(園庭が多い)となり10時頃集合(園庭やホール、各クラスなど)して朝の挨拶や歌、宗

教園ではお祈りなどの儀式が行なわれその後クラス別の一斉による課題活動が行なわれる場合が多い。課題を終了した子から順次自由あそびとなり、昼食準備、昼食、自由あそび、降園30分前頃再び集合し、歌、絵本、紙芝居などの保育があり、降園準備、降園、といった時間的流れが一般的といえよう。季節によりプールあそびや行事の練習、園外保育なども組み込まれよう。曜日によって講師による体育指導や英語、リトミックなどが予定されている場合もある。

平成2年度から実施された教育要領の改訂により「環境による保育」「援助者としての教師」が基本となり教師主導型ではなく子ども主体の園生活が実践されなければならない。勿論そのことと形態は100パーセント一致するとはいえないが先に述べた一斉活動と自由あそびのみでは改訂の趣旨は活かされないと思う。そこで保育形態から子ども主体への変化が多少なりとも掘めるかどうか探るため保育科学生の実習日誌から以下の通り調査を実施した。

V 幼稚園の保育形態の実態

1. 調査目的

幼稚園の保育はおおむね一週間単位で繰り返される。(小学校の時間割に準じている場合が多い)そこで保育科2年生の3週間の実習期間の実習日誌から行事のない一週間を選び、週のカリキュラムを下記の項目について調査する。

- (1) 登降園時間と保育時間の調査
- (2) 一日のスケジュールを、一斉活動、自由活動、その他(着替えや昼食など、生活活動ともいう。)に分け一斉と自由時間の比率を調査する。
- (3) 一斉活動と自由活動の保育内容をそれぞれ調査する。
- (4) 特徴ある園についてそのカリキュラムを調査する。

以上から、先にIVで仮定した一般的幼稚園の従来のタイム・スケジュールと差がみられるか検討する。さらにもし変化が多少ともあるなら、それは幼稚園教育要領の趣旨に準じての変化かどうかを検証したい。

2. 調査方法

- ・調査期間 平成10年6月第2週または第3週の一週間の保育

- ・調査資料 駒沢女子短期大学保育科2年生の幼稚園実習日誌

(主に第3週とし年中の学年を対象とした。第3週に行事があり、一日以上特別の保育や休日がある場合は第2週を選んだ。年中児を主にしたは、学生の実習が年中クラスに配属されている日数が多いためである。該当なしの場合は年長または年少クラスを充当した。)

- ・資料数 120冊(120名分)
- ・園数 81園(公立園…6園、私立園…75園)
(資料数と実習園数が一致しないのは、一園に複数実習しているためである。)
- ・実習地域 11県
内訳

東京都……38園	千葉県……3園	福井県……1園
神奈川県……23園	栃木県……2園	富山県……1園
静岡県……5園	茨城県……2園	富山県……1園
埼玉県……4園	福島県……1園	

資料1 幼稚園保育の実情

(駒沢女子短期大学保育科2年生幼稚園教育実習記録より)

年長	年中	年少	6月 日～ 日		実習生 組、氏名						
園名			幼稚園		住所						
園児数			名	内訳	年長…	年中…	年少…	その他…			
クラス数			名	内訳	年長…	年中…	年少…	その他…			
教職員数			名	内訳	園長	主任	担任	名	補助教員	名	その他
期	月	火	水	木	金	土	平均				
8時											
9											
10											
11											
12											
1											
2											
計											

・調査資料の作成

資料1の様な記録用紙を作成し、一園ずつ学生の日誌から、抽出する週のタイム・スケジュールを転記し、平均を出した。

3. 調査結果

(1) 一日の保育時間について

登園時間	園数	%
8:10~8:20	12 園	14.8
8:30	30 園	37.0
8:40~8:45	13 園	16.0
8:50~9:00	24 園	29.6
9:15	1 園	1.2
9:30	1 園	1.2

降園時間 (昼食のある日)	園数	%
1:10~1:15	3 園	3.7
1:30	15 園	18.6
1:40~1:45	5 園	6.2
1:50~2:00	50 園	61.7
2:15~2:30	6 園	7.4
3:00	2 園	2.5

保育時間 (昼食ありの日)	園数	%
4時間10分~4時間20分	2 園	2.5
4時間30分	5 園	6.5
4時間40分~4時間50分	7 園	8.6
5時間	22 園	27.2
5時間10分~5時間20分	15 園	18.5
5時間30分	21 園	25.9
5時間40分~5時間50分	5 園	6.2
6時間	4 園	4.9

注…バス通園の場合は第一陣の到着時間と出発時間とした。保育時間もその時間とした。

午前保育について

- ・81園中、水曜日が午前保育の園は47園 (58%)、木曜日が午前保育の園が1園、また土曜日にも保育ありの園は33園 (40.7%)であった。
- ・全体的には土曜日休みの園が増加してきているが、土曜日にも昼食ありの園が1園あった。(地方園)

登園、降園時間について

- ・8時から8時30分までの登園が51.8%、8時30分から9時までが45.6%である。降園時間の方

は、登園時間に比べばらつきがあるが、1時30分から2時までが全体の86.5%を占めてる。

保育時間について

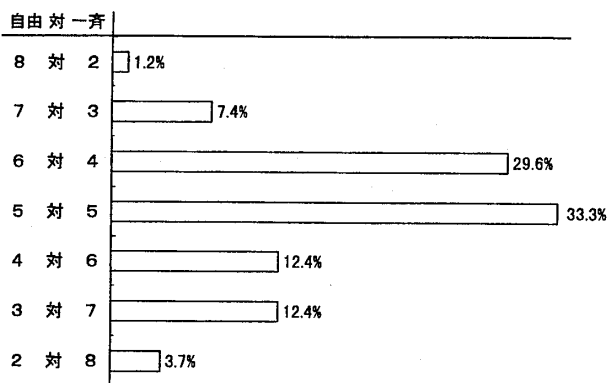
- ・教育要領にうたわれている4時間の園は1園もない。5時間以上の園が55.5%と半数以上であった。

以上の結果から、園による保育時間のばらつきがあることがわかる。また全体に保育時間が従来の4時間中心に比べかなり長くなっていることがわかる。各園の傾向を見ると土曜日を休みにして、昼食のある曜日の保育時間を一日30分程度延長した園が多いのではないかと。さらに少子化傾向が反映して長時間保育が徐々に増加してきたのではないかとと思われる。登園時間が早く土曜日にも保育ありは圧倒的に地方園に多かった。

(2) 保育時間中における自由活動時間と一斉活動時間について

一週間の保育時間(午前保育の日を抜かす)を園ごとに平均化し、着替えや昼食時間を除き、自由活動時間と一斉活動時間の割合を出してみた。(図1)

図1 保育期間中における自由活動時間と一斉活動時間の割合

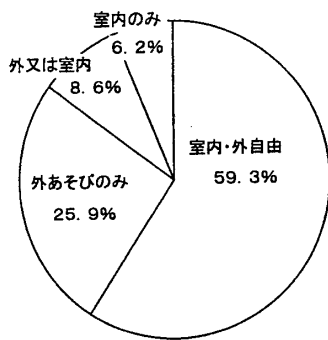


この結果から見ると思ったより自由時間は多いことがわかる。では自由時間の内容はどうであろうか。まず空間面からそれを探ってみた。(図2)

屋内外自由に行っている園が多いが、午後は場所を限定されることが多い。これは、子どもの昼食時間の差から早く食べ終わった子どもの待ち時間的要素が強いためであろう。また午後は自由時間のない園が9園もあった。

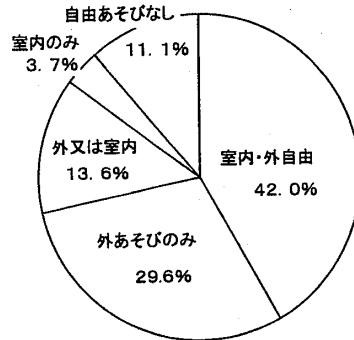
(図2)

自由時間の場所(午前)



室内・外自由 … 59.3%(48園)
 外あそびのみ … 25.9%(21園)
 日により外又は室内… 8.6%(7園)
 室内のみ … 6.2%(5園)
 自由あそびなし … 0%

自由時間の場所(午後)



室内・外自由 … 42.0%(34園)
 外あそびのみ … 29.6%(24園)
 外又は室内 … 13.6%(11園)
 室内のみ … 3.7%(3園)
 自由あそびなし… 11.1%(9園)

(3) 自由活動時間と一斉活動時間の保育内容について

今回、できれば自由時間において教師の援助が適切になされているか、また一斉活動時間において、子どもの主体性が尊重されているか、を探ってみたかったが、これには日誌からでは限界がある。しかし、保育内容からある程度は概観できるのではないかと思い、それぞれの保育内容をチェックし抽出してみた。

自由時間の内容

①自由あそびの種類

- ・室内あそび 玩具あそび→積木、ブロック。製作あそび→折紙、自由画、粘土、工作。ごっこあそび→ままごと。以上が定番、他には廃材使用あそび、絵本、ビデオなどがごく少数。
- ・園庭あそび 固定遊具あそび→ブランコ、滑り台、アスレチック、など。砂場あそび。移動遊具→なわとび、ボール、三輪車。運動あそび→サッカー。伝承・ごっこあそび→鬼ごっこ、かくれんぼ、あぶくたった、電車ごっこ。環境差によるあそび→木登り、虫取り。各園の園庭環境に左右されるが、固定遊具あそびと鬼ごっこが圧倒的に多い。

②自由時間の特徴

- ・固定遊具に依存した放任型自由あそびが多い。
- ・一部教師が参加する場合があるが、その場合、自

由あそびを引っ張っていく形式。

- ・雨天以外はほとんど「外あそび」の園もある。
- ・時間調整的自由時間がかなりある。

バスなど登降園時の待ち時間。昼食や課題活動が早く終わった子どもに絵本や粘土あそびをさせる場合。クラスの園児を半分に分け課題活動の指導と自由あそびを交互に行なう場合など。

- ・自由時間に課題活動のやり残しを一部の子に指導しているケースもある。

一斉(課題)活動の内容

①課題活動の種類

- ・宗教的活動 キリスト教系、仏教系の園では朝の自由あそび後、集合して宗教歌やお話を聞く時間がある。(15分から30分)
- ・造形活動 大多数の園が週2~3回、一日30~40分は行なわれている。毎日の園もある。
 時期的に七夕製作の指導が多かった。
 他には、時計づくり、父の日プレゼントなど。
 ダンボールによる恐竜づくりや廃材利用の工作がごく少数あり。
- ・音楽活動 リトミック、楽器、遊戯指導などが週1~2回、メロディオン、ハーモニカなどを継続指導している園もある。
 歌、手あそびなどは集合時や降園前の時間調整に指導されている場合が多い。時期的に盆踊りの指導が数園あった。
- ・体育活動 体操、跳び箱、鉄棒、マットなどの紹介や指導が多い。体力測定やトランポリンの指導、マラソンなどが少数。時期的にプールあそびも多少

あった。体育は外部講師によって指導されている園も数園あり。

- ・知的活動 ワーク・ブック的な教材、英語・英会話指導（外部講師による）なども数園あり。フラッシュ・カード、漢字、S Iあそび（知能訓練）も一部で健在。これらのほとんどを時間割風に盛り込んでいる園も数園あり。
- ・その他 料理づくり、芋（じゃがいも）掘り、釣り、など各1園あり。紙芝居は昼食後の休憩時間での読み聞かせが多く、絵本の読み聞かせは少ない。

②課題活動の特徴

- ・活動内容は園によりかなりの差が見られるが、造形、音楽、体育は定番。
- ・外部講師による指導も多く、そのための時間調整（待ち時間）で細切れの活動をしている園もある。
- ・教師主導型の一斉活動の形態がほとんどである。
- ・園外保育や草取りなどが少ない。飼育などもほとんど行なわれていない。実習後、学生に聞いた所、約半数以上の園で小動物の飼育をしていたが、保育活動として飼育を導入している園は1割程度であった。

(4) 特徴ある園について

(図3) A園

曜日	月	火	水	木	金
8時					
9	← ← 登園、自由あそび → →				
10	積木 ままごと 工作 固定遊具	砂場 固定遊具	積木 ままごと ボール 粘土	竹馬 砂場 積木 折紙	砂場 ごっこあそび 竹馬
11	← 昼食準備、昼食、片づけ →				ゆうぎ ゲーム かけっこ
12	← ← 自由あそび → →				自由あそび
1	← ← 歌、絵本 → →				自由あそび
2	← ← 降園準備、降園 → →				

①具体的な一週間のカリキュラム抜粋（3園の紹介）81園の中から、自由時間の多い園、一斉時間の多い園、一般的な園を各一園選び次に紹介する。（3園とも土曜日は、保育なし）

A園 自由時間の多い園…園児数 38名(クラス数 年長…1、年中…1) (図3)

(図4) B園

曜日	月	火	水	木	金
8時					
9	← ← 登園・外自由あそび → →				
10	マラソン 体操 乾布摩擦 朝礼 歌	月曜と同じ	出欠・紙芝居	マラソン 体操 リトミック	リトミック 礼拝 フラッシュカード そろばん 他
11	礼拝 フラッシュカード 詩、俳句他	礼拝 フラッシュ そろばん 漢字	じゃが芋畑へ 芋掘り	礼拝 漢字、漢詩 ことわざ	粘土 絵
12	英語	英語		メロディオン	
1	絵画 (図案)	ゆうぎ指導 地図パズル	歌、ゆうぎ	絵画 (お父さんの顔)	メロディオン 紙芝居
2	← ← 降園 → →				

(図5) C園

曜日	月	火	水	木	金
8時					
9	← ← 登園・自由あそび → →				
10	← ← 朝の会 → →				
11	歯磨き指導 紙芝居	製作 (父の日 プレゼント)	製作 (指人形)	製作 (七夕飾り)	製作 (七夕飾り)
12	自由あそび	自由あそび (外)	自由あそび	体操教室 (跳び箱)	
1	← 片づけ、給食準備、給食、片づけ →				自由あそび (砂場)
2	← ← 自由あそび → →				身体測定 自由あそび
3	← ← 船りの会、降園 → →				

B園 一斉時間の多い園…園児数 352名 (クラス数 年長…4、年中…5、年少…3)
(図4)

C園 標準的な園…園児数 89名 (クラス数 年長…1、年中…2、年少…2) (図5)

A園のようなゆったりした保育を行なっている園は園児数の少ない園、および公立園に多い。しかし一部の公立園には、一斉の割合がかなり多い場合もあった。

B園の様に極端に一斉活動の多い園は少数だが、しかしフラッシュカードやS Iあそびを導入している園は総じて一斉の細切れ課題活動が多く、また園児数も多い園である。

比較のために載せたC園はごく標準的な園である。各園により時間帯に多少の差があるが、半数以上(60%)の園がC園に準じる。

②その他の保育について

・解体保育

調査した一週間の記録に解体保育が実施されていたのは2園であった。一園は毎週土曜日にクラスを解体し、体育、造形、音楽などそれぞれ準備された保育室、あるいはコーナーに園児が自分で選択して出掛け、その活動を指導する保育者と関わるという内容。保育者はあらかじめ自分の担当する分野の保育内容を計画している。

他の1園は、毎週月曜日は、登園から降園まで、身仕度や昼食などの時間を除き完全に自由時間としている。保育者は、あらかじめ計画を立てる訳ではなく子どもの要求に応じて保育指導や環境を準備する形態である。2園とも全園児対象。

その他午前保育の日(水、土)を比較的枠にはめず、自由時間を多く取っている園が数園みられた。

・混合保育(縦割り保育)

81園中クラス編成を混合(3・4・5歳)にしている園は2園のみであった。両園ともモンテッソーリ園である。モンテッソーリ園は他に2園あったがクラス編成は学年別で朝の自由活動時間のみ混合となる形態であった。

・その他

毎週水曜日(午前保育)に園外保育をしている園、曜日を決めてスポーツ・センターやプールに

出掛けている園があった。

VI まとめ

保育時間について

土曜日を休みにして、降園時間を2時にしている園は29園(36%)であった。(除、水曜日)

昼食のある日の平均保育時間は、4時間10分から6時間と2時間近くのばらつきがあることに驚いた。登園、降園時間もまちまちだが、9時~2時の5時間保育は東京の園に多かった。

全体に幼稚園の保育は長時間化してきた傾向にある。その理由は週休2日制が徐々に浸透してきたことと、少子化による園児数減の影響で園児獲得のためのサービス競争の影響も大きいのではないだろうか。今回、日誌からの調査ではその実態は把握できなかったが、預かり保育実施園もかなり増加しているようである。幼稚園の保育所化傾向は今後も増加するであろう。

保育内容について

自由保育の内容は、圧倒的に自由遊びの時間であった。中には折紙で遊ぶ時間、粘土で遊ぶ時間と、課題を限定した内容を自由時間としている園が特に昼食後に多かった。自由という名の課題活動の感が強い。

いずれにしても屋内外を問わず保育者の関わりなしに勝手に遊具で遊んでいるといった放任的な自由時間が従来の保育同様多いことがわかった。しかし園によっては保育者が積極的に遊びに参加しているケースも少数ではあるが見られた。

一斉保育では、保育者が全面に出て、子ども達を引っ張るケースが依然として健在である。フラッシュカードや知育教育を導入している園にその傾向が強いようである。

一部に園児の創造性や自発性を尊重する保育導入を試みている園があるが、経験も浅く試行錯誤しながら保育の転換を図っているのではないかと思われる。新しい傾向として、外部講師による英語・英会話指導を導入する園が増加しているようだ。

季節的なこともあるかもしれないが、飼育・栽培などの保育は少なかった。原体験を経験させる取り組みは、かなり意図的に保育者が試みない限り薄れていく傾向を感じる。

新幼稚園教育要領の意図である環境の充実、子どもの主体性の尊重、保育者の援助・助言的保育が現状では相当難しく、依然として教師主導型保育が盛んな実態が読み取れる。現場の意識面での浸透は思ったより進んでいないように思う。

その理由は、一つには、園や保育者が幼稚園教育要領改訂の意図を捉えるにあたり自己解釈による納得部分が多いのではないだろうか。次にお受験熱や知育指向が幼児の家庭の方に強く、園児獲得のため親の要望に傾斜し園児数を増やしている園もあるように思う。第3に従来からの保育方法が身に染みつき、頭では理解していてもどのように保育してよいか解らず、行動が伴わないケースもあるように思うのである。「ゆうぎ会」を「表現発表会」などと名称を変えるような形式的でうわべのみの変更になってしまわないことを望みたい。

自由活動・自由保育は自由遊びと同じではない。しかし保育の現場ではこれらの混同が見られる。今後「自由遊び」と「自由活動」の明確な区分概念が必要と思われる。そして刻々と変化する子どもの活動に合わせ、それに適した環境を整えていく保育者の援助的関わりが要求される。自由時間は少しずつ増加傾向にあるようだが内容的にはまだかなり貧弱のように思われる。個人差を配慮した自発活動は、発達の一助となるような計画的環境構成が必要である。その辺の詰めが浅いように思われる。抜本的改革に手を付けず、部分的で外面的変更で新しい幼児教育を導入しようとしてもどこかに無理がきて不自然なものとなるであろう。しかし努力しないよりは良い。各園の今後の取り組みに期待したい。

Ⅶ おわりに

これまでの保育をこのような形で調査したものがないため、客観的に比較検討することはできなかった。今後数年おきに調査記録をとれば、幼稚園教育の移行過程がある程度把握できるように思う。また実習園にアンケート調査や実際に訪問する機会が増えれば、データーとしては見えてこない保育者の関わり方を観察することも可能ではないかと思われるが、実情把握はかなり困難を伴うであろう。

次の計画としては、教育要領の改訂を現場の保育者がどのように捉え、模索しているのかを探ってみたいものである。

保育日誌はかなり克明に記入されている。また複数の学生（1園、2名が多かった）の日誌を参考にできたので、タイム・スケジュール面の調査はかなり事実と一致していると思われる。しかし保育の質的観察は実習生の目からであるため取り上げなかった。

今後ますます保育の質的向上が現場の保育界に要望される。保育者養成の立場からも実習園の実態を把握しておくことは重要なことと思う。さらにこれから保育者となる若い学生達に講義を通して幼稚園のあるべき姿をしっかりと認識させ実践の場に送り出したいと思う。最後に膨大な資料整理に協力してくれた本学保育科出身の鈴木（旧姓、市川）紀子さんに感謝する。

Ⅷ 参考文献

- (1)日本保育学会編「保育形態とその効果」（保育学会年報 1981年版）フレーベル館 1981. 11. 10
- (2)文部省「幼稚園教育要領」1999. 11. 18
- (3)田中敏隆編「幼稚園・保育所の保育内容」（保育総論）田中出版 1992. 6. 25
- (4)上笙一郎、山崎朋子著「日本の幼稚園」（幼児教育の歴史）理論社 1965. 9
- (5)全日本私立幼稚園連合会編「21世紀を展望した幼児教育への提言」ひかりのくに 1995. 2